

4 わたしたちの市の歩み

1 かわる道具とくらし →
2 市のうつりかわり



かわるまちの様子ようす

てつやさんたちが、昔の道具を調べた時、民俗資料館に古い写真があることに気づきました。昔のまちの様子にきょうみをもったてつやさんたちは、入江公園をさつえいした写真を見ながら、話し合いました。

室蘭市の町なみは、昔と今ではどのようところがちがうのだろう。



「おとうとと、入江公園で遊んだことがあるよ。」



「遠足で、石のすべりだいやシーソーにのって遊んだことがあるわ。」



「昔の写真を見ると、線路があるね。」



「石炭は、どこからきたんだろう。」

「石炭は、港から船で運んだのかな。」



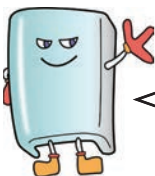
おきなかし
「沖中士という仕事があったそうだよ。」

「水族館の写真もあったよ。」



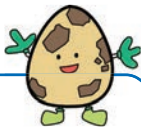
「水族館のすぐそこに海があったんだ。」

「海だったところには住たくもあるね。」



入江公園で石炭の積み下ろしをしていたなんて、びっくりだね。市の様子のうつりかわりについて調べてみよう。

市の様子は、昔と今では、どのようにちがうのだろう。



活動

- 昔の市の様子について、家の人に聞いてみよう。
- 市のうつりかわりについて、学習問題をつくろう。
- 学習問題について予想し、学習計画を話し合おう。

学習問題を作り、学習の見通しをたてよう
みさきさんたちは、昔の市の様子について、学芸員の谷中さんにインタビューしてみました。

学芸員の谷中さんの話



室蘭市は、なみのおだやかなわんがあったので、よい港として使われてきました。

その後、夕張などで見つかった石炭を運び出す港として、また、鉄や鋼をつくる大工場ができて発展しました。

そして、戦争の時代には、外国から空襲や艦砲射撃を受け、たくさんの方が亡くなったりけがをしたりした悲しいできごとがありました。

戦争が終わると、人々の豊かで安全なくらしを支える工場のまちとして発展し、人口も大きく増えました。



「わたしたちの市が、どのようにかわってきたのか、もっとくわしく調べてみようよ。」



学習問題をつくって、見通しを立てよう



ほうだんあと
砲弾跡の中島地区とその拡大写真（航空写真）



「1学期にやった市の様子の学習をふり返って、学習の見通しをたてようよ。」

みさきさんたちは、市の交通、土地の使い方、人口、公共しせつに注目して、調べるとよいのではないかと予想し、学習計画を立てました。



学習の見通しが立ったら、まず、交通について調べよう。だれにインタビューするといいのかな。

市の交通の広がりは、どのようにかわったのだろう。



交通はどのようにかわったかな



ふうたさんたちは、本輪西町に住む長谷川さんを訪ねてインタビューしました。

本輪西町に住む長谷川さんの話

白鳥大橋は、1998年6月13日に開通しました。それまで、市立病院に通うのがたいへんでしたが、短い時間で行けるようになり、体の具合や病状によって病院を選びやすくなりました。また、水族館へも近くなり、家族といっしょに楽しみやすくなりました。



このころは半島の先まで行くのに、時間がかかりそうだね。高速道路もなかったのね。



昔と今の室蘭市の主な道路

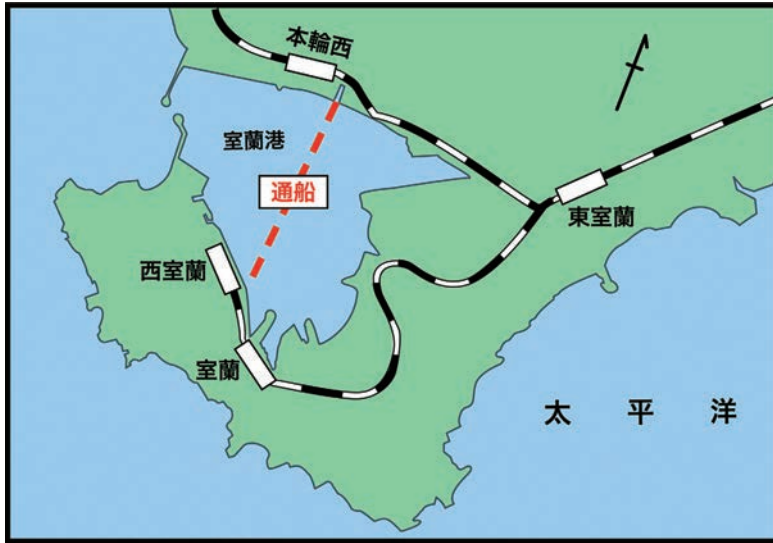


白鳥大橋の開通で、港をかこむように道路ができて、よかったのは病院だけかな。

白鳥大橋以外にも、人々の生活と交通のかかわりで変わったことを調べたいな。



ふうたさんたちが調べていくと、昔の交通の様子が見える地図を見つけました。



西室蘭駅

おほしな
い
小橋内町にあった、
かもつ
貨物駅。貨物用の
線路があまり使わ
れなくなり、昭和
60(1985)年に廃
し
止となった。



あれ？室蘭駅の先に、もう一つ駅があるぞ。

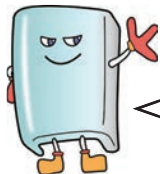
通船って、何かしら。



太平洋橋がなかったころは、日本製鉄の土地を通らしてもらっていたそうだよ。

室蘭通船

室蘭港内で、にもつや人を運ぶためのわたし船。図の室蘭-本輪西間の船は昭和45(1970)年まで使われていた。



昔とくらべると、今は道路が市の全体を通っているね。次は、土地の使われ方を調べてみよう。

市の土地の使われ方は、どのようにかわってきたのだろう。



● 土地の使われ方はどのようにかわったのかな
● てつやさんたちは、学芸員の谷中さんに
● 昔の土地の使われ方について、お話をうか
● がいました。

学芸員の谷中さんの話



江戸時代の終わりころには、イギリスやロシアの船が北海道にもくるようになったので、警備のために南部陣屋がつくられました。

明治になってからは、農業をしながら室蘭を守る屯田兵が、今の知利別町や中島町で畑をつくっていました。

今は、石油タンクがある陣屋町の海岸は、もとは砂浜の海水浴場でしたし、室蘭水族館のちゅう車場もうめ立てたところです。

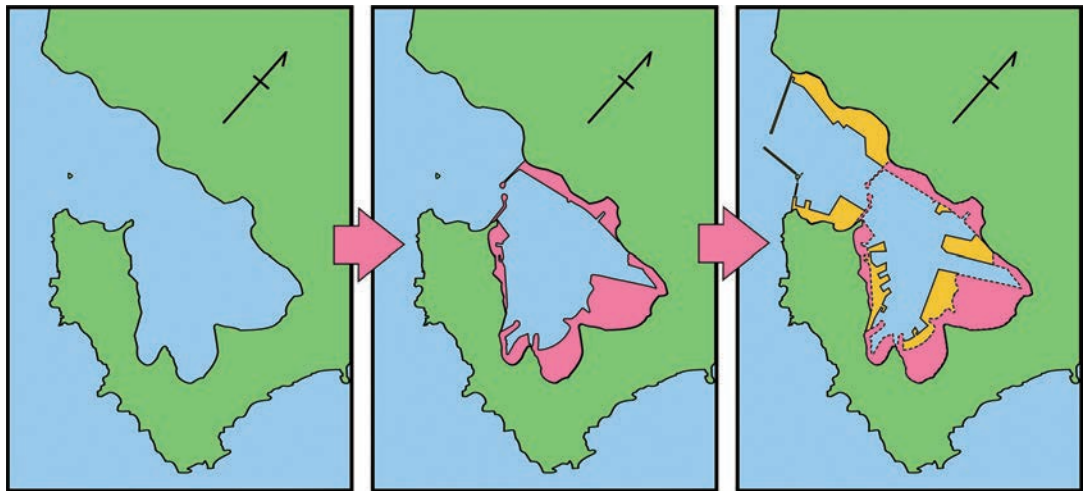


砂浜だったころの陣屋町の海岸



今の陣屋町ようすの様子

ななみさんたちは、埋め立てのようすの
わかる地図を見せていただきました。



もとの海岸線

昭和30年ころ

現在の様子

室蘭市の海岸線のうつりかわり



「知利別町や中島町には、今も農
家をしている人が、いるのかな。」

「もとの半島は、今よりずっと細
い感じがするね。」



「うめ立てられたのは、わんの内
側だね。何に使われたのだろう。」



室蘭市は、うめ立てられてできた
土地が多いんだね。

陣屋

江戸時代に、大名の屋敷や役所が置かれた建物。「陣屋町」という地名は南部陣屋があったことからついた。

屯田兵

北海道の開拓と警備のために、明治時代に本州から北海道の各地に家族で移り住んだ。もと武士が多い。

市の人口は、どのようにかわってきたのだろう。



人口は、どのようにかわったかな

てつやさんたちは、室蘭の人口のうつりかわりについて市役所の北村さんにお話をうかがいました。

市役所の北村さんの話



あなたがたのおじいちゃんが子どものころになると、室蘭市の人口が急げきにふえ、人口が20万人をこえそうになりました。そこで、室蘭市では、まず白鳥台に新しい住たく地をつくりました。住たく

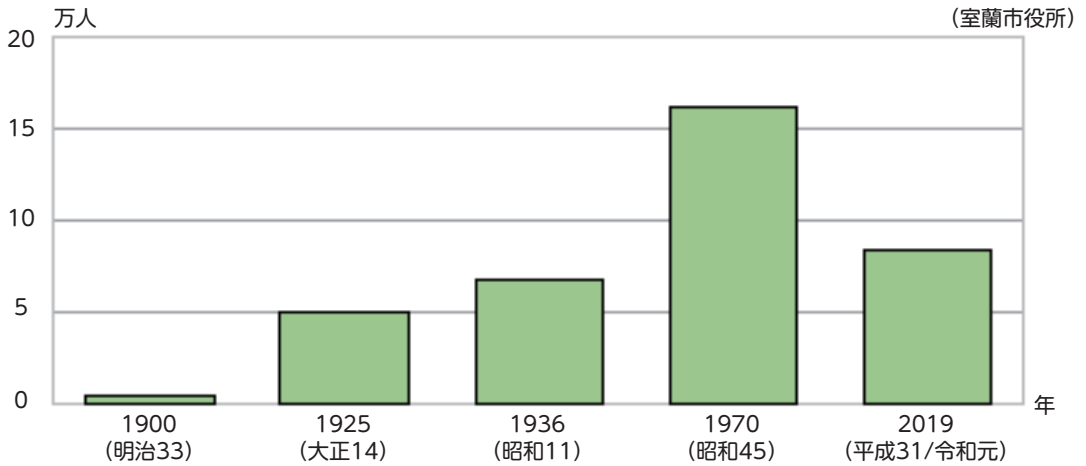
地はその後、八丁平などにも広げました。

しかし、そのころから日本全体のけいざいの発てんがゆるやかになったことや機械化によって、工場はたらで働く人が少なくなり、市全体の人口もへっています。

そこで、市や地いきに住む方々が、自分たち達の街を元気とりくみにしようと「まちづくり」の取組を進すすめています。



「『まちづくり』のためにどんな取組が行われているのかな。」



室蘭市の人口のうつりかわり



人口がふえたり，へったりしたわけを知りたいな。

ふうたさんたちは，図書館で市の人口のうつりかわりを調べて，グラフと年表でまとめました。

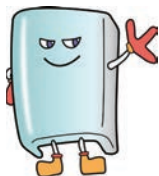
室蘭市の人口のうつりかわり

1871年	このころ本州からの移住が始まる。592人
1892年	トカリモイ港開港 2075人
1900年	室蘭町となる 5461人
1925年	5万0040人(室蘭市となって初の国勢調査)
1936年	およそ6万8000人
1941年	およそ12万7000人
1944年	12万4034人
1947年	9万6722人
1960年	14万5682人
1970年	16万2059人(このころの人口が最も多い)
2019年	8万4348人

室蘭に本州の人が初めて移住してきたのは、1870(明治3)年。最初の移住者は51人だった。1871(明治4)年の人口は、先住民であるアイヌの人たちと移住者との合計。

国勢調査

日本に住むすべての人に対して行われる、人口などのくわしい調査。



交通や人口に変化があったけど、公共しせつこうきょうについても調べてみよう。



けんしゅう
研修室



しょうがい
生涯学習センター「きらん」



キッズパーク

市の公共しせつは、どのようにつくられ、りようされているのだろう。



公共しせつはどのようにかわったかな

てつやさんたちは、室蘭市生涯学習センター「きらん」館長の堀さんにインタビューしました。

館長の堀さんの話



ここは、小さなお子さんからお年よりまで、たくさんの方がりようします。

さまざまなグループが教室をひらいたり、活動場所としてりようしています。

こうしたしせつは、市役所が中心となって整えてきました。公共しせつをつくったり、運つかいしたりするために、市民のみなさんのぜいきんが使われていますよ。



きらん内の図書館分室（ブックパーク）



室蘭市内の図書館分室

てつやさんたちは、「きらん」に図書館^{かん}の分室があることに気づきました。

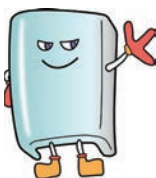


きらんホームページ
を見てみよう。

図書かんの分室の方のお話

市立図書館は、幸町にあります。市内にはいくつかの分室がつくられています。

また、分室のないところには、移動図書館の「ひまわり号」が行って、本をかし出しています。



いろいろなしせつがつくられてきたんだね。前にまとめた年表にこれまで書いた絵カードを書き足してみよう。

市の様子は、どのようにかわってきたのだろう。



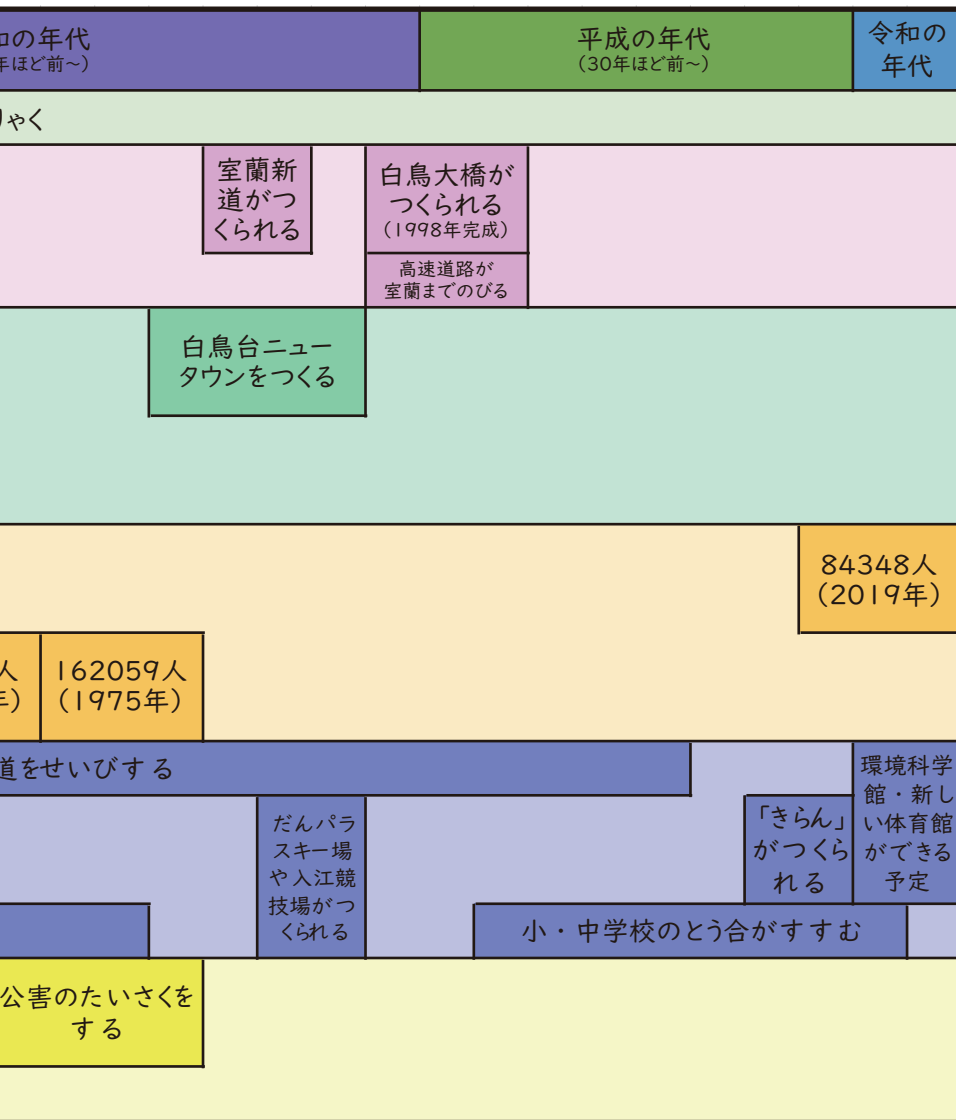
年代	明治の年代 (150年ほど前~)	大正の年代 (65年ほど前~)	昭和の年代 (50年ほど前~)
	「道具」「くらしの様子」はしょうり		
交通	港・札幌本道・鉄道がつくられる		
土地の 使われ方	室蘭町となる	日本製鋼所・富士製鉄がつくられる	室蘭市となる
人口	屯田兵によるかいたく	50040人 (1925年)	およそ68000人 (1936年)
	592人 (1871年)		およそ127000人 (1941年)
公共しせつ	常盤小学校ができる		水産試験場ができる
	公立室蘭病院ができる		消防署ができる
その他	中国との戦争	ロシアとの戦争	ヨーロッパを中心にした戦争
	国内で鉄がひつようになった	鉄をたくさんゆ出した	太平洋戦争(かんぼうしゃげき)

年表を書き足そう

ふうたさんたちは、これまでに調べてきた交通、土地の使われ方・人口・公共しせつなどについて、年表にまとめることにしました。



お父さんやお母さんが子どもだった1998年に、白鳥大橋ができて、交通の便がよくなったんだね。



戦争が終わると、平和で豊かな生活をささえるために、鉄が作られるようになったそうだよ。

交通，土地の使われ方，人口，公共しせつには，たがいに，かかわりがありそうね。



これからの市は，どのようにかわっていくのがよいのかな。年表を見て話し合おう。

